

令和7年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和佐幼稚園

教育目標

豊かな心を持ち、明るく元気な和佐っ子を育てる。

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
開かれた幼稚園教育をめざして	幼稚園教育で育まれる力とは・ 豊かな経験を通して	四季折々を感じられるような食植物を育て、成長や収穫を楽しめるようにする。	今年度も、野菜の栽培や生き物の飼育など、四季の移ろいを感じられる活動を進めてきた。畑では、昨年度に植えたジャガイモがたくさん収穫できたほか、今年度は地域の方に畑をお借りしてサツマイモ栽培にも挑戦した。収穫した野菜を使って作った料理は子供たちにも大好評で、栽培への興味や意欲を高めるきっかけとなった。
		豊かな経験ができるように、たっぷりと遊べる時間を確保する。	今年度も、登園後から11時頃まで、子供たちが好きな場所で好きな遊びを十分に楽しめるよう環境づくりに取り組んできた。特に今年度は、異年齢で関わり合いながら遊ぶ姿が多く見られ、年齢の違いから生まれる刺激を受け合いながら、豊かな遊びが広がっていた。
		子供たちの興味や関心の幅が広がるように、遊具や用具、材料を工夫する。	全職員で子供たちの遊びの様子をもとに、よりよい環境構成について検討してきた。また、今年度は保育室の一室を「ざいりょうのおへや」として整備し、テープ類・画用紙・廃材・リボンなどの様々な材料を整理して管理できるようにしたことで、子供たちの遊びがさらに広がっていった。
	身近な人との触れ合いを通して	遊びや日々の生活を通して、他の学年の友達にも親しみを持ち、一緒に遊びたい気持ちをもてるようにする。	好きな遊びを通して、子供たちは園内のさまざまな場所へと足を運び、そこで出会う友達と関わりながら遊ぶ姿が多く見られた。こうした関わり合いの広がりを受け、職員は自分のクラス以外の子供の様子にも目を向け、担任の思いやねらいを共有しながら子供理解を深めることの大切さを実感した。
		一人一人の子供の実態に応じた細やかな支援をするため、職員間で子供理解に努め、共通理解を図る。	実際の子供の姿をもとに、園職員で子供理解を深めながら、必要な援助や環境構成について検討を重ねてきた。今後も、より専門的な知識が求められる場面が増えると考えられるため、職員研修を継続的にを行い、保育の質をさらに高めていきたい。
		隣接する小学校との交流を通して、小学校へ期待をもったり、幼稚園以外の人々にかかわったりする楽しさを味わう。	今年度は、5歳児と小学1年生との交流を中心に、5年生と4・5歳児との関わりや、幼小合同避難訓練などの機会を通して、小学校の校舎内に入る経験を重ねてきた。こうした活動により、小学校をより身近に感じられるようになったと思う。これらの小さな積み重ねが、就学後の学びへと自然につながっていくことを期待している。
	子育て支援を通して	毎日の送迎に、園での子供の様子伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、共に成長を見守っていく。	毎日、保護者と顔を合わせて話ができる時間を大切にしている。園と家庭の様子を細やかに共有し合うことで、子供の育ちをとともに見守り、支えていく関係性が何より重要であると感じている。
		保護者に幼稚園教育をわかりやすく伝えるために、クラスだよりや参観の内容を工夫する。	クラスだよりや参観などを通して、子供たちの活動の様子を丁寧に保護者へ伝えてきた。また、クラス独自のアンケートなどで保護者の声を聞き取りながら、より伝わりやすい情報発信となるよう工夫を重ねている。
		クラスだよりや園だより・ホームページ等を活用し、子供の様子を伝えながら、幼稚園教育を発信する。	クラスだよりの写真をカラーにするなど、園だよりやホームページでは子供たちの活動の様子が少しでも伝わるよう、情報発信に力を入れている。特に、年々園児獲得の課題が浮き彫りになってきていることから、保護者や地域の方に興味をもって見てもらえるような工夫がますます重要になっている。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

- ・全体として肯定的な意見が多く、日頃の教育活動や園の取組が一定の評価を得ていることが確認できた。
- ・一方で、幼小連携・接続に関する取組については継続して実施しているものの、その意図や内容が保護者に伝わっていない状況も見られ、情報発信の方法や伝え方の工夫が今度の課題である。
- ・自分自身の子供に関する項目では、否定的な回答もあり、子供の出来ている部分や成長の様子を十分に共有出来ていない現状も明らかになった。保護者が子供の姿を前向きに捉えられるよう、子供の良さや伸びている点を丁寧に伝えていく取組も必要である。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

今年度の取組を振り返る中で、保護者の理解をより確実に得るためには、情報発信の方法を見直す必要があることが分かった。毎年の課題ではあるが、園だよりやクラスだより、ホームページなどに、取組の意図や子供の姿が分かりやすく伝わる情報を載せることが求められている。今後は、内容の精選や表現の工夫を進め、保護者が教育活動をより理解しやすい発信へと改善していく。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・幼稚園で身につけてきた早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣を、今後も継続できるよう、引き続きご家庭での朝食の習慣づくりにご協力いただきたい。
- ・地域の自治会では異年齢交流を大切にしている。幼稚園においても、幼小連携を含め、さまざまな人と関わりあえる取組を進めてほしい。
- ・いじめなどの問題が起こらないよう、子供の心を守る環境づくりに努めてほしい。また、人の気持ちを理解し、思いやりをもって行動できる子どもの育成に今後も取り組んでほしい。